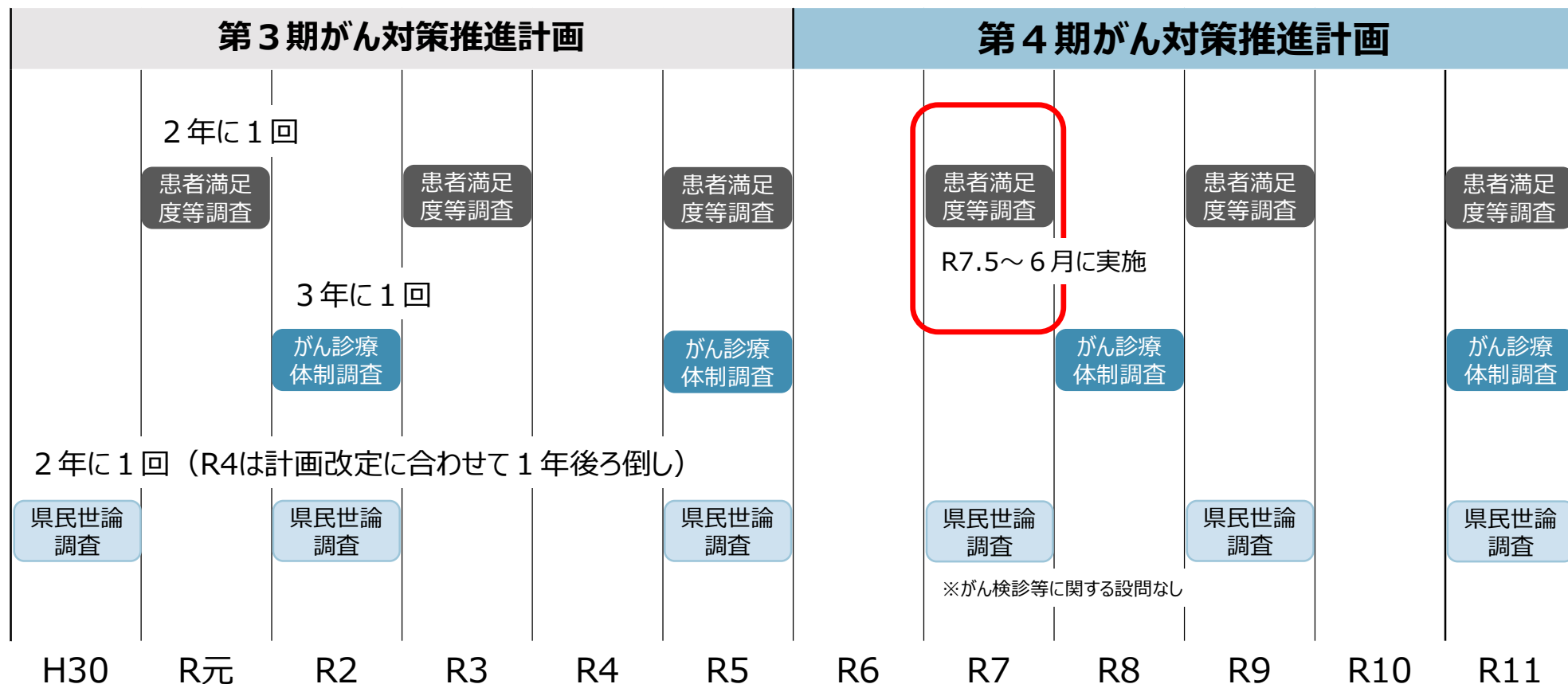


患者満足度等調査 の結果概要について

調査のこれまで

目的：県内におけるがん患者のがん医療に対する満足度を経年的に把握し、がん対策推進計画の取組評価を行う。



調査の概要

■ 調査対象期間

令和7年5月15日～6月30日

■ 調査協力医療機関

31機関（【R5】30機関、【R3】13機関）

患者への配付数

951（【R5】1,088、【R3】471）

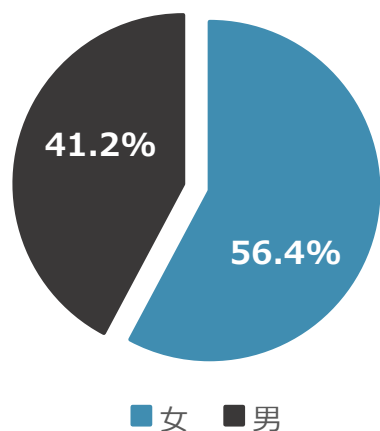
回収数

534（【R5】571、【R3】225）

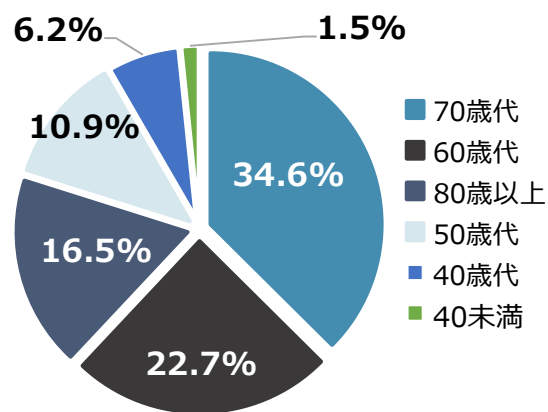
回収率

56.2%（【R5】52.5%、【R3】47.8%）

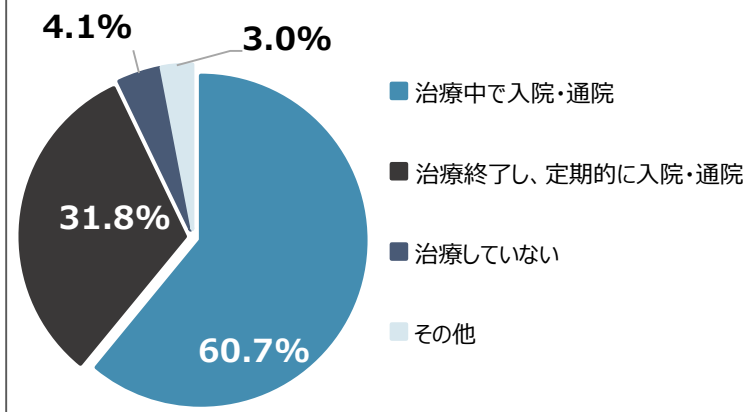
患者の性別



患者の年齢（現在）



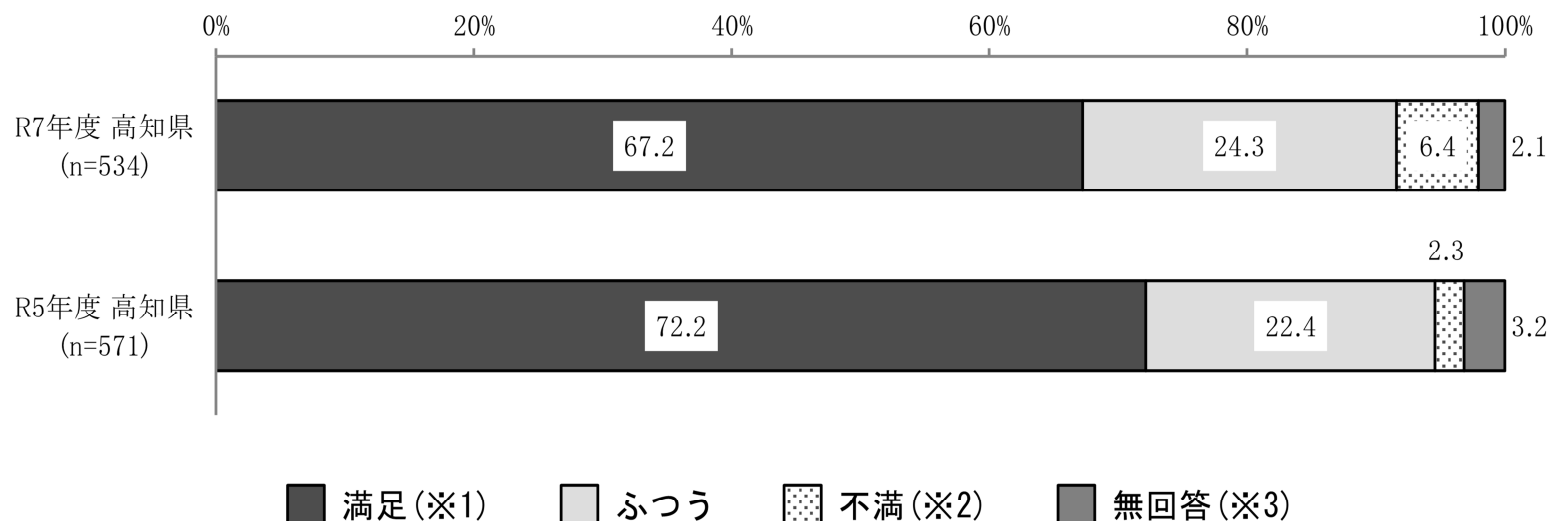
現在のがん治療状況



がんの診断・治療全般について総合評価

がんの診断・治療全般に「満足」とした人は**67.2%**
「不満」とした人は**6.4%**

図表9 がんの診断・治療全般について総合的評価【前回調査との比較】



《 R 7 年度の問13 》

今回のがんの診断・治療全般について総合的に評価すると、5点満点中何点ですか
(1つ選んでください)

5 非常に満足 4 やや満足 3 ふつう 2 やや不満 1 非常に不満

《 R 5 年度の問 8 》

問 8 これまで受けた治療等に満足していますか。＜受けた治療内容＞

1 非常に満足 2 やや満足 3 ふつう 4 やや不満 5 非常に不満 6 その他

(※1) 「満足」は、「非常に満足」と「やや満足」を合算した値

(※2) 「不満」は、「非常に不満」と「やや不満」を合算した値

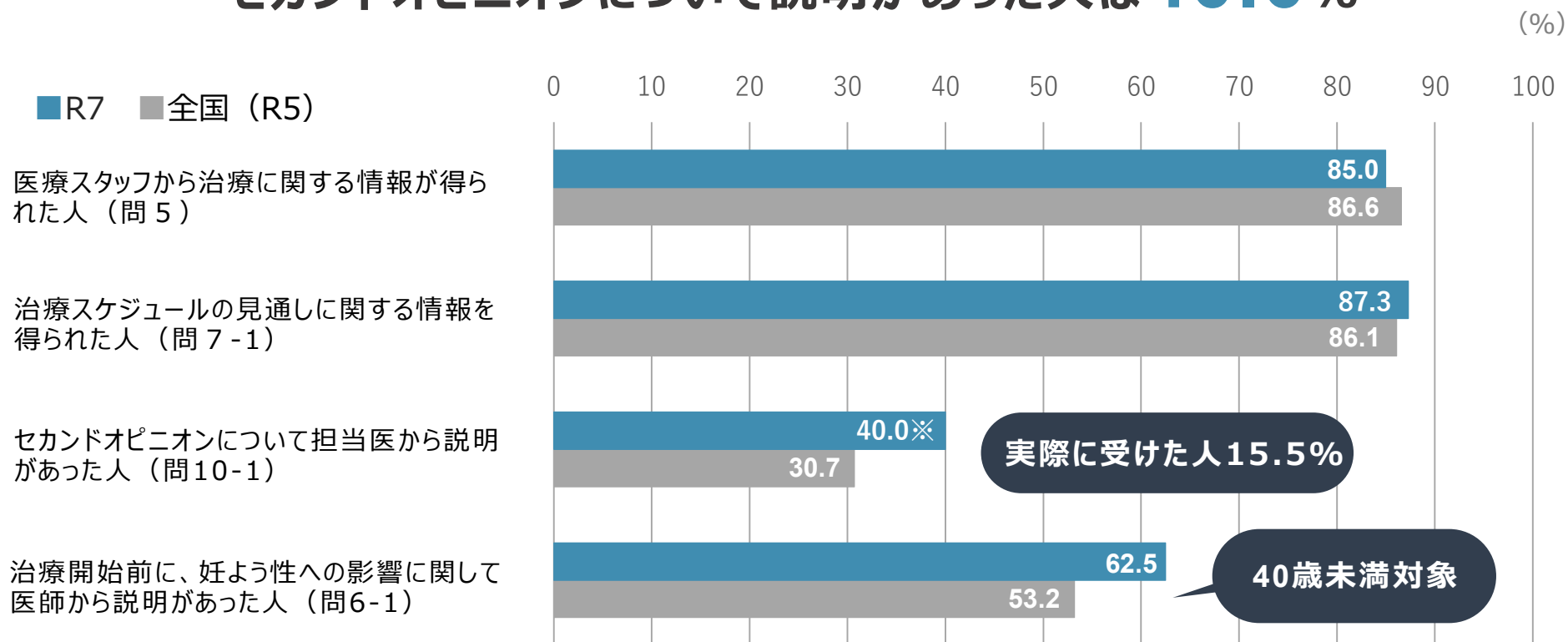
(※3) R 5 年度は、「その他」と「無回答」を合算して R 7 年度の「無回答」と比較している。

治療前および治療中の情報取得・提供

治療に関する情報が得られた人は**85.0%**

治療スケジュールの見通しに関する情報を得られた人は**87.3%**

セカンドオピニオンについて説明があった人は**40.0%**



※「説明があり、受けた」と「説明があったが、受けなかった」を合算した値

医療スタッフとのコミュニケーション・連携

つらい症状にすみやかに対応してくれたと回答した人は**89.6%**

医療スタッフ間で情報共有されていたと回答した人は**87.1%**

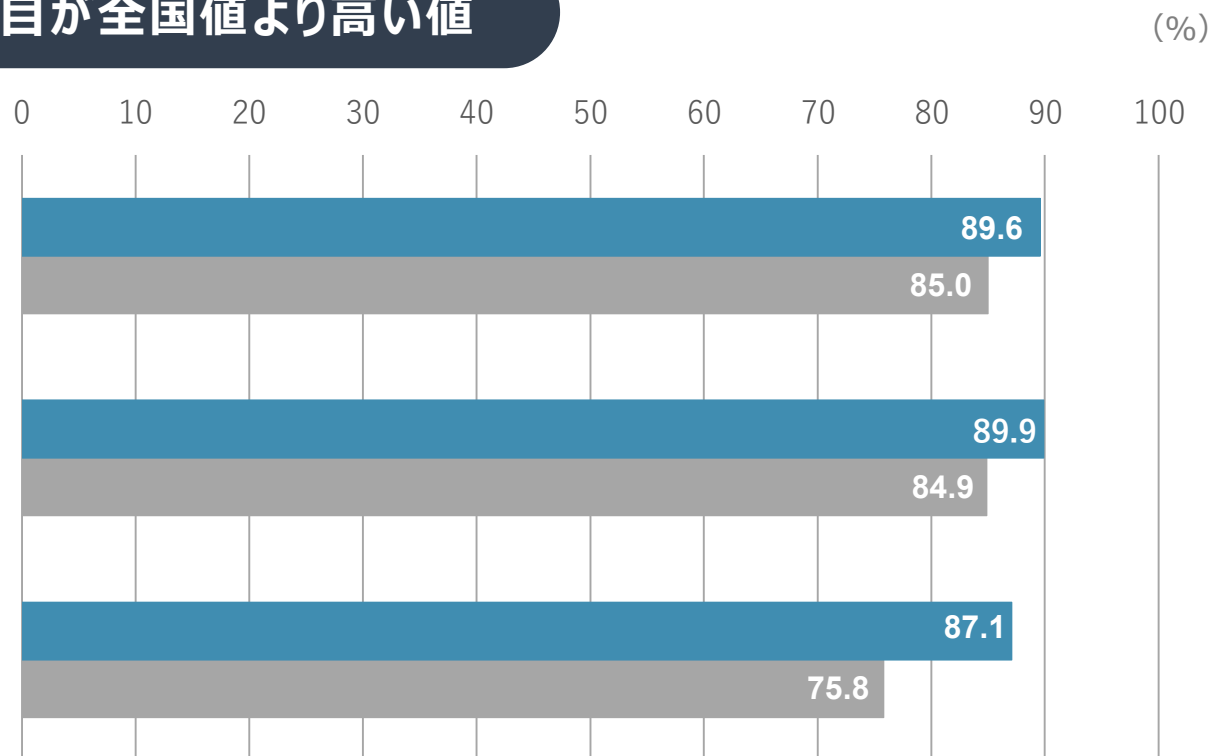
全ての項目が全国値より高い値

■ R7 ■ 全国 (R5)

医療スタッフがつらい症状にすみやかに対応してくれたと回答した人 (問7-3)

医療スタッフはあなたの言葉に耳を傾け、理解しようとしてくれたと回答した人 (問7-4)

医療スタッフ間であなたのことに関して情報が共有されていたと回答した人 (問7-5)



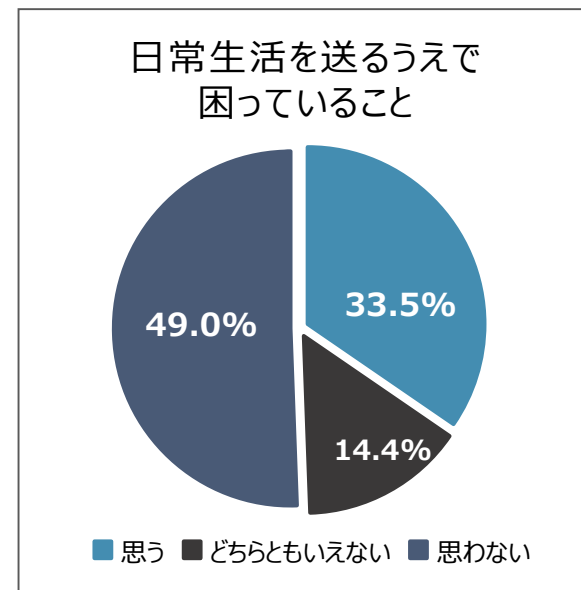
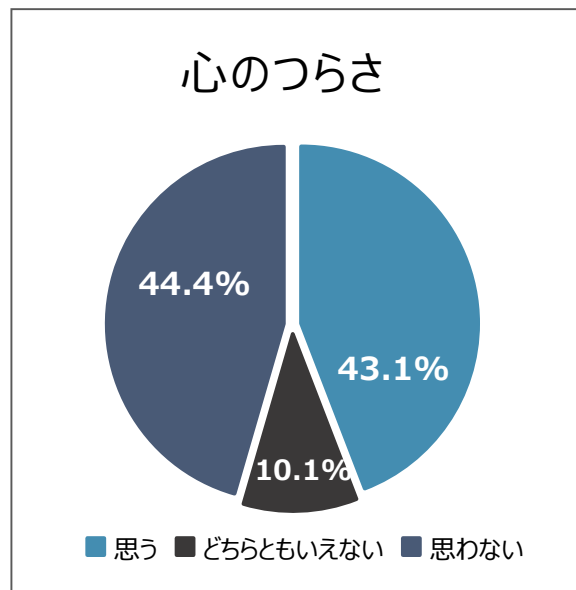
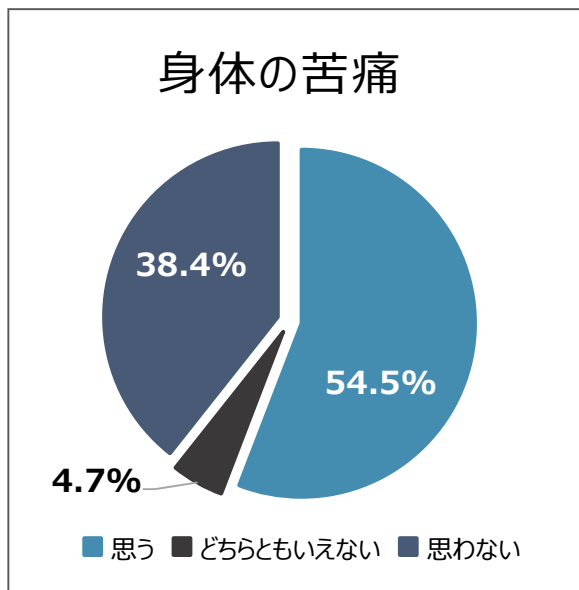
緩和ケア

1 現在の心身の状態

■ 何らかの身体の苦痛があると回答人は**54.5%**

■ 心がつらいと回答した人は**43.1%**

■ 日常生活を送るうえで困っていると回答した人は**33.5%**



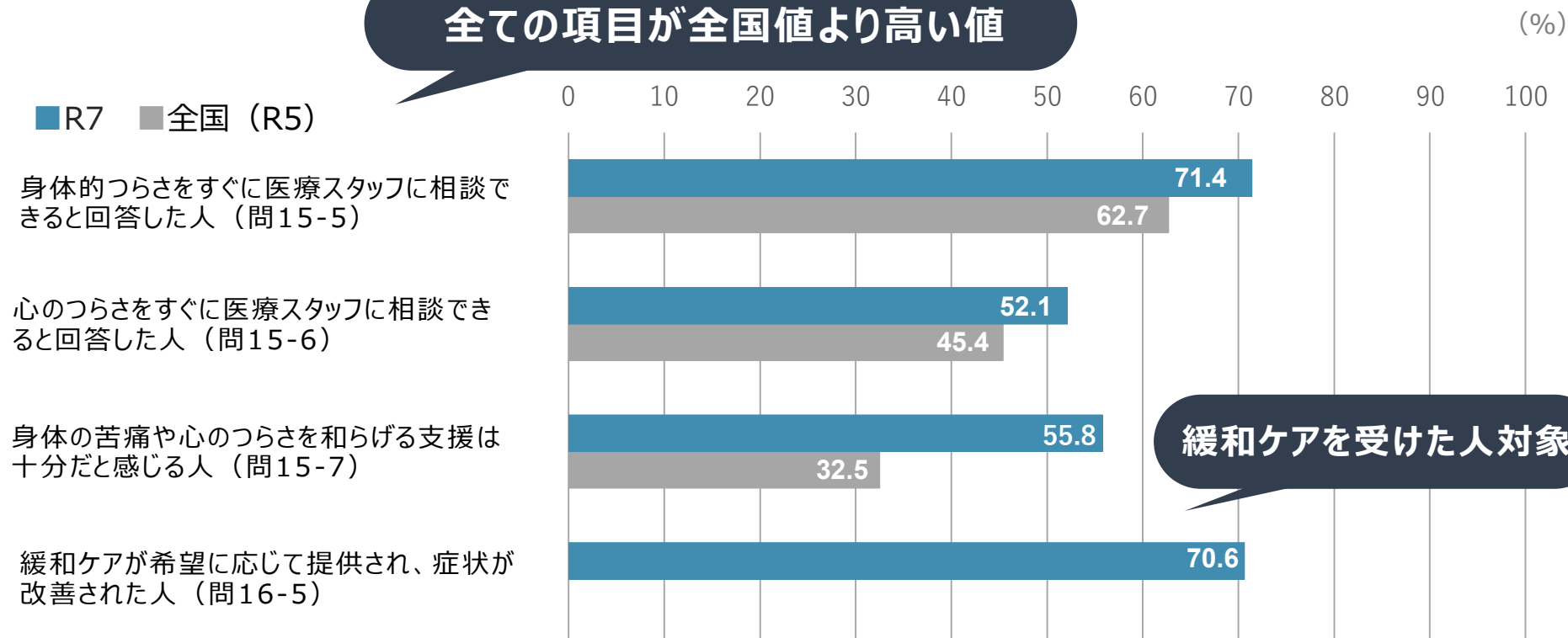
緩和ケア

2 苦痛への相談・対応

身体の苦痛や心のつらさを和らげる支援は十分だと感じる人は**55.8%**

緩和ケアが希望に応じて提供され、症状が改善した人は**70.6%**

全ての項目が全国値より高い値



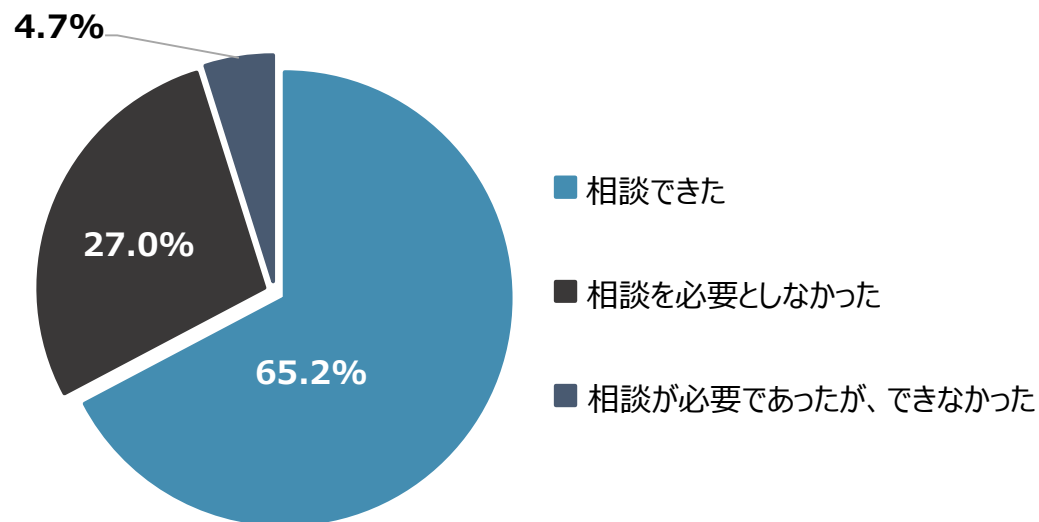
相談支援

1 相談状況について

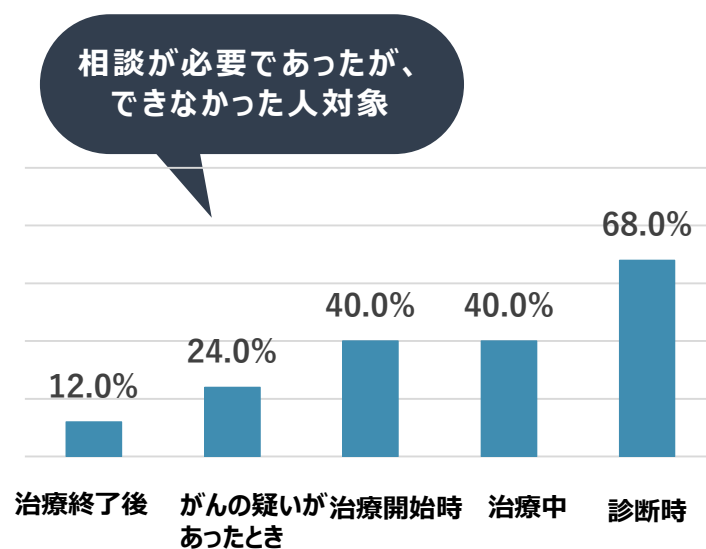
病気や療養生活に関して誰かに相談できた人は**65.2%**

相談したかった時期は「**がん診断時**」が最も多い

【病気や療養生活に関して誰かに相談できたか（問11-3）】



【相談したかった時期（問11-3）】

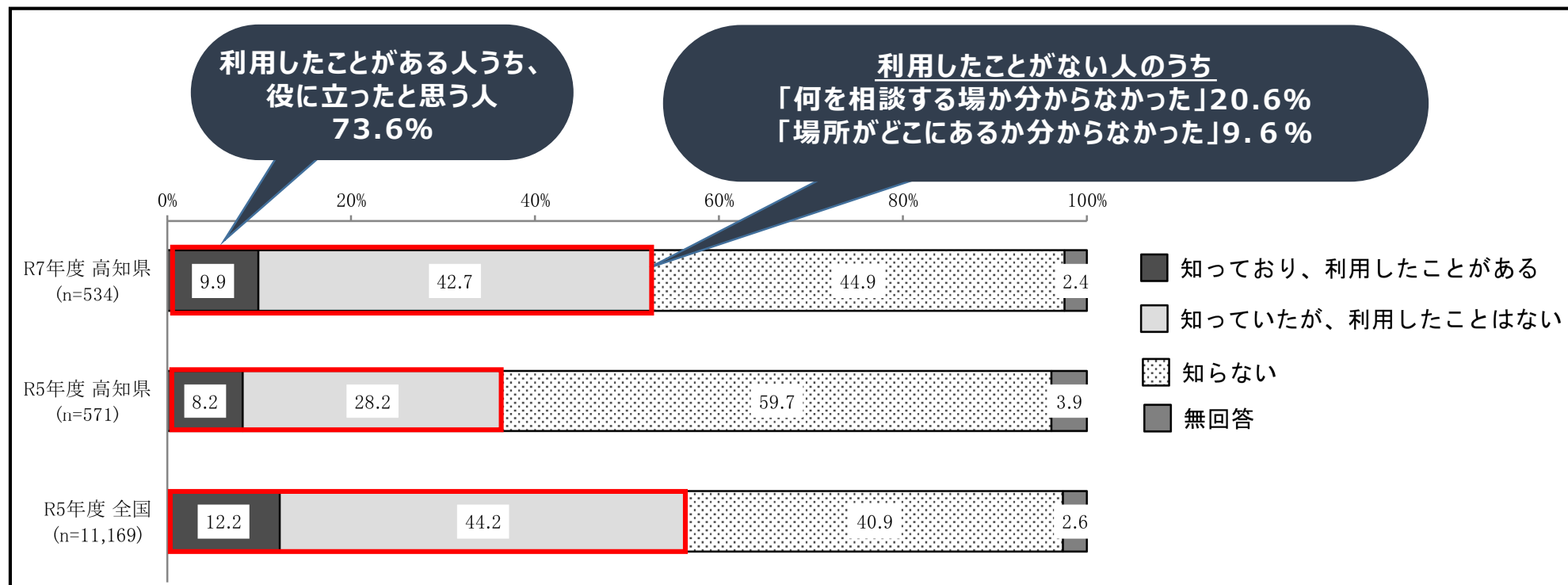


相談支援

2 相談窓口（がん相談支援センター等）について

がん相談支援センター等を知っている人は**52.6%**

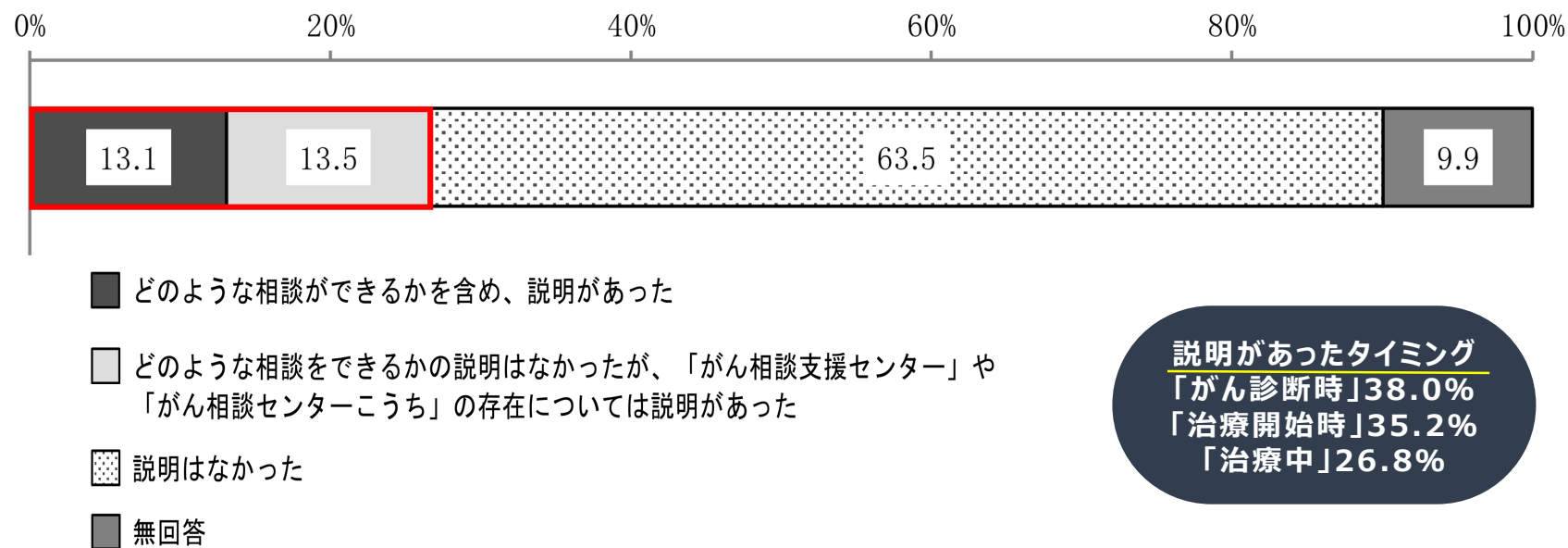
そのうち、利用したことがある人は**2**割



相談支援

2 相談窓口（がん相談支援センター等）について

医療スタッフから相談窓口について説明があった人は **4 人に 1 人**

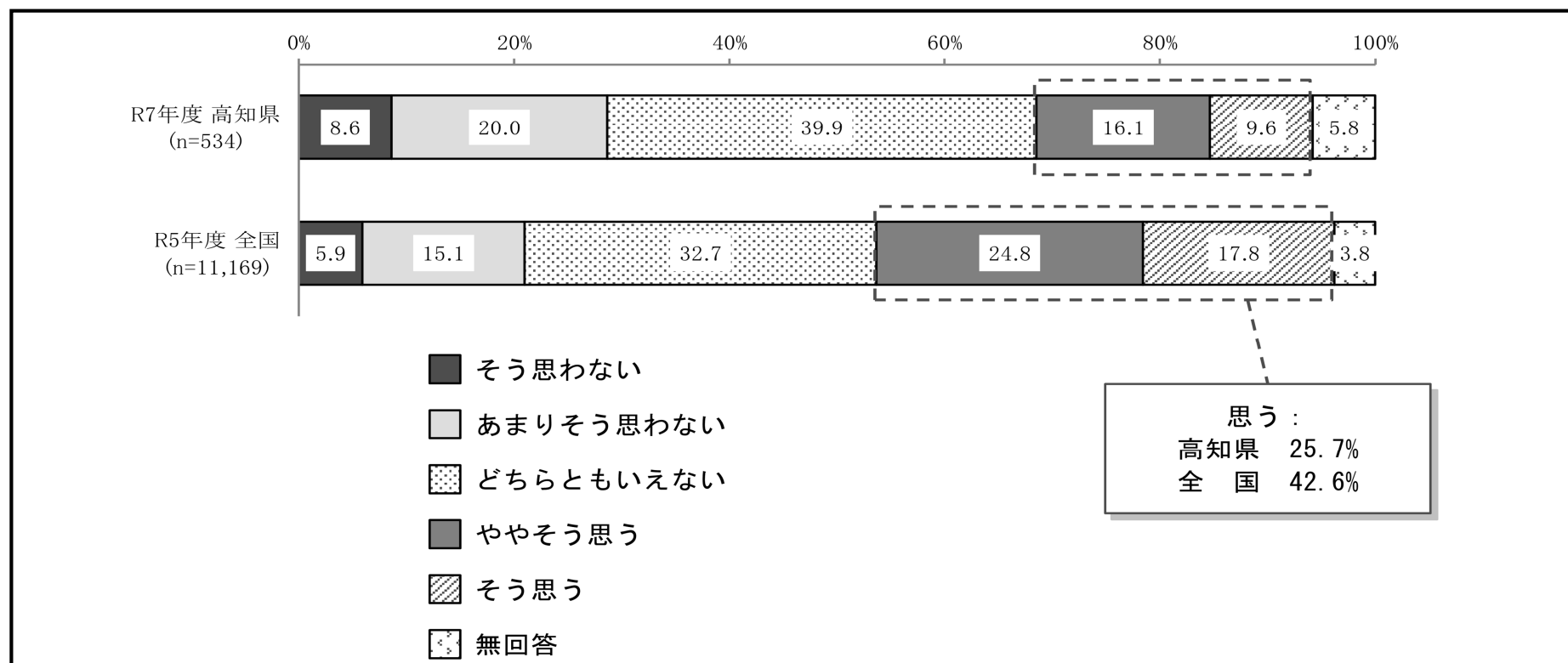


相談支援

3 家族の悩みや困りごとへの相談支援について

がん患者の家族の悩みや困りごとを

相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う人は**25.7%**



高知県版がんサポートブックについて

がんサポートブックを見たことがある人は **5 人に 1 人**
詳しく知りたいと思った情報は、「**がんの治療**」のページ



がんサポートブックを見たことがある人
(問18-1)



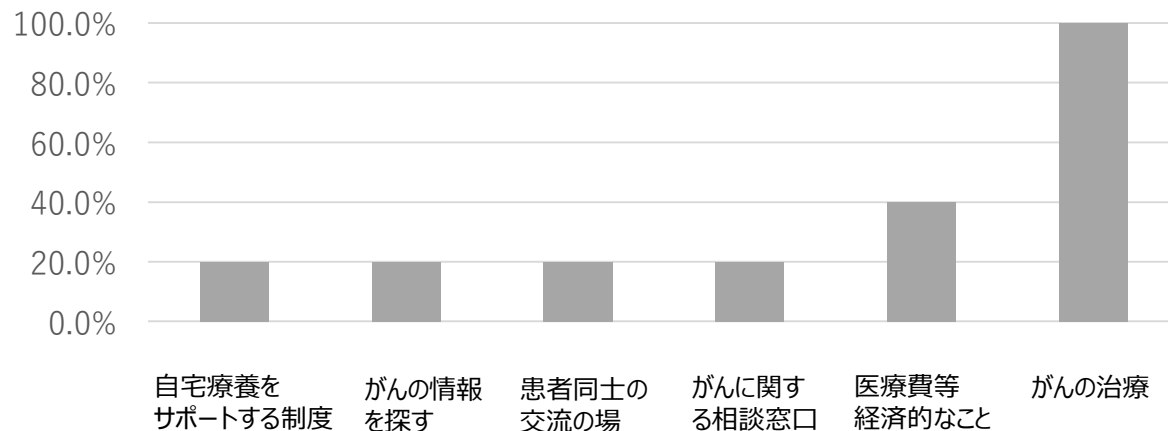
役に立ったと思う人 (問18-2)



医療スタッフから手渡しされた 7.9%
医療機関に置いてあるのをもらった 4.1%
医療機関で置いてあるのを見かけた 9.4%

【詳しく知りたいと思った情報】

- がんの治療
- 医療費や生活費など経済的なこと
- がんに関する相談窓口
- 患者会や患者同士の交流の場
- がんの情報を探す
- 自宅での療養生活をサポートする制度



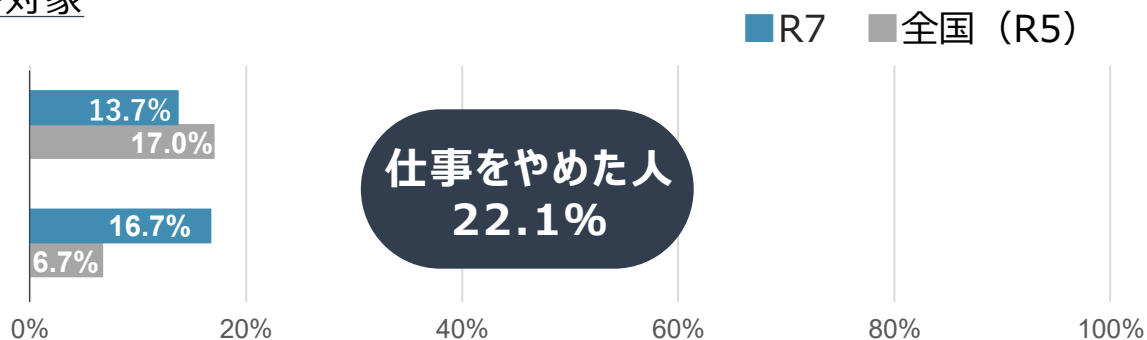
就労(就学)等の状況

今まで続けてきた仕事を **2** 割がやめている
うち、治療が始まる前にやめる人が **5** 割

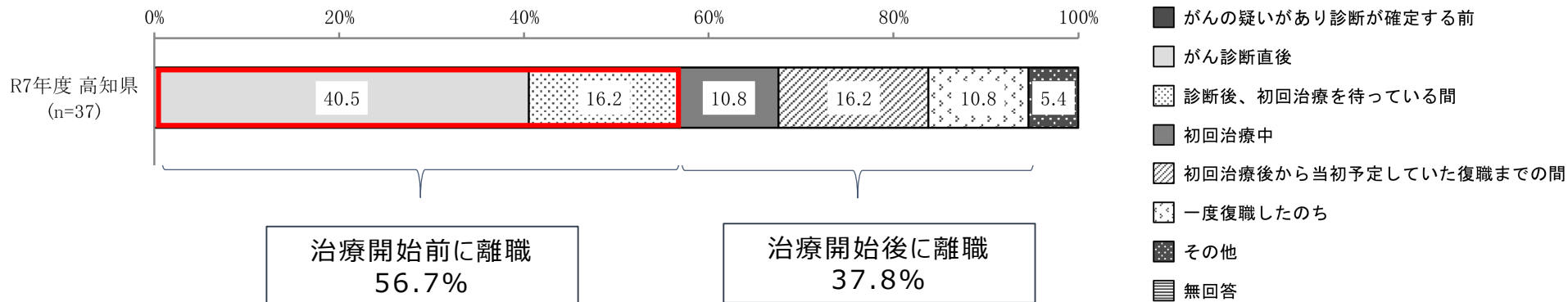
診断時に就労していた、回答者の43.1%が対象

がん治療のために、退職（退学）・廃業した人（問21-5(1)）

休職・休業したが復職していない人（問21-5(2)②）



【退職したタイミング】



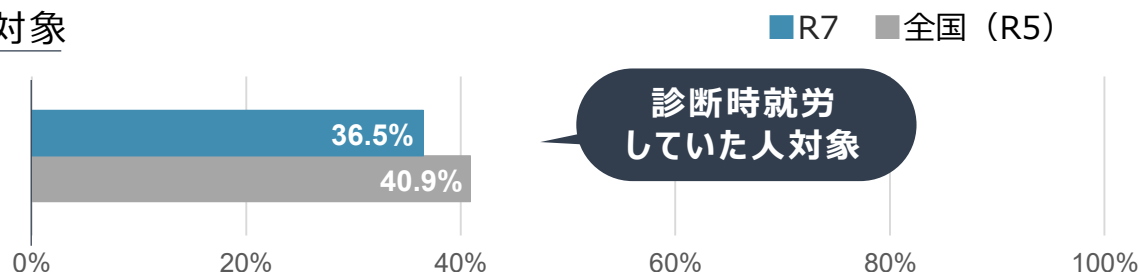
就労(就学)等の状況

治療前の就労の継続に関する説明があった人は **3** 割

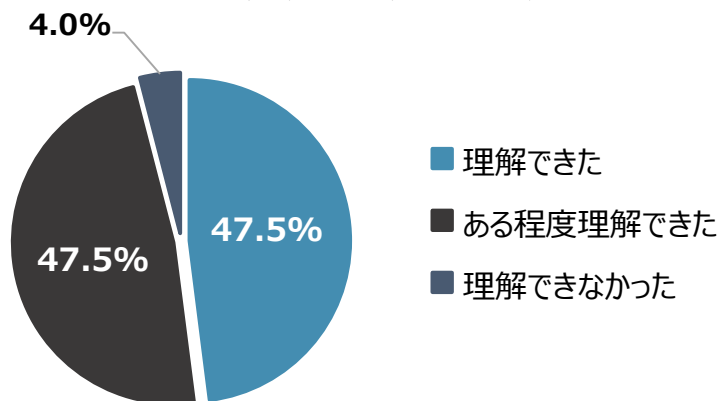
自身で選択した働き方に納得している人は **5** 割

診断時に就労していた、回答者の43.1%が対象

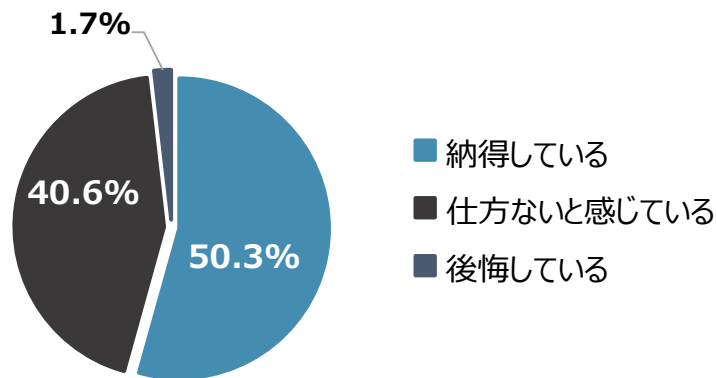
治療前の就労(就学)の継続に関する説明について、医療スタッフより説明があった人(問21-4)



治療前の就労(就学)の継続に関する説明は理解できたか。



ご自身で選択した働き方(学び方)に納得しているか

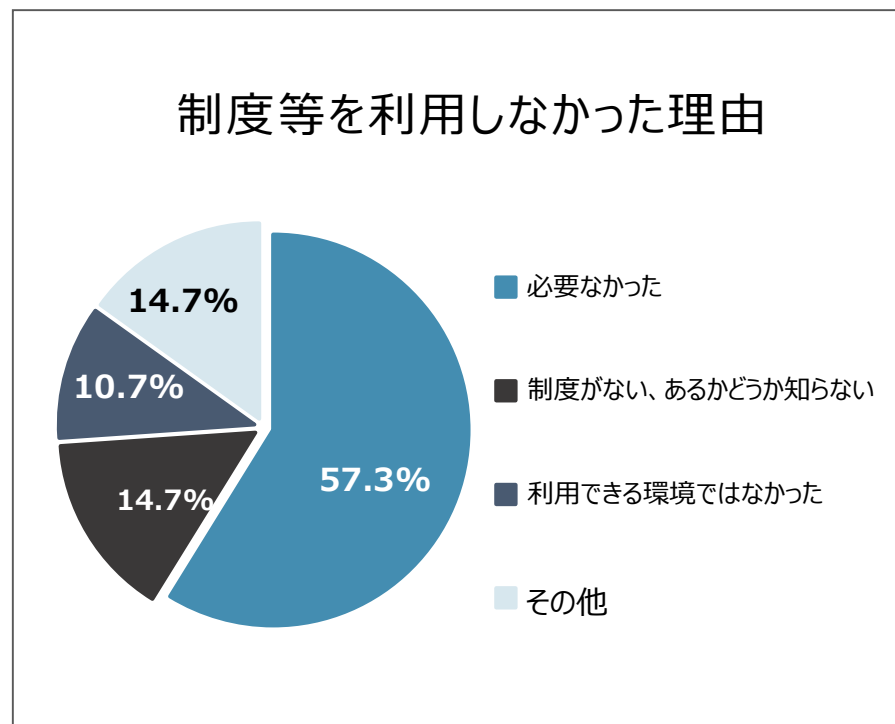
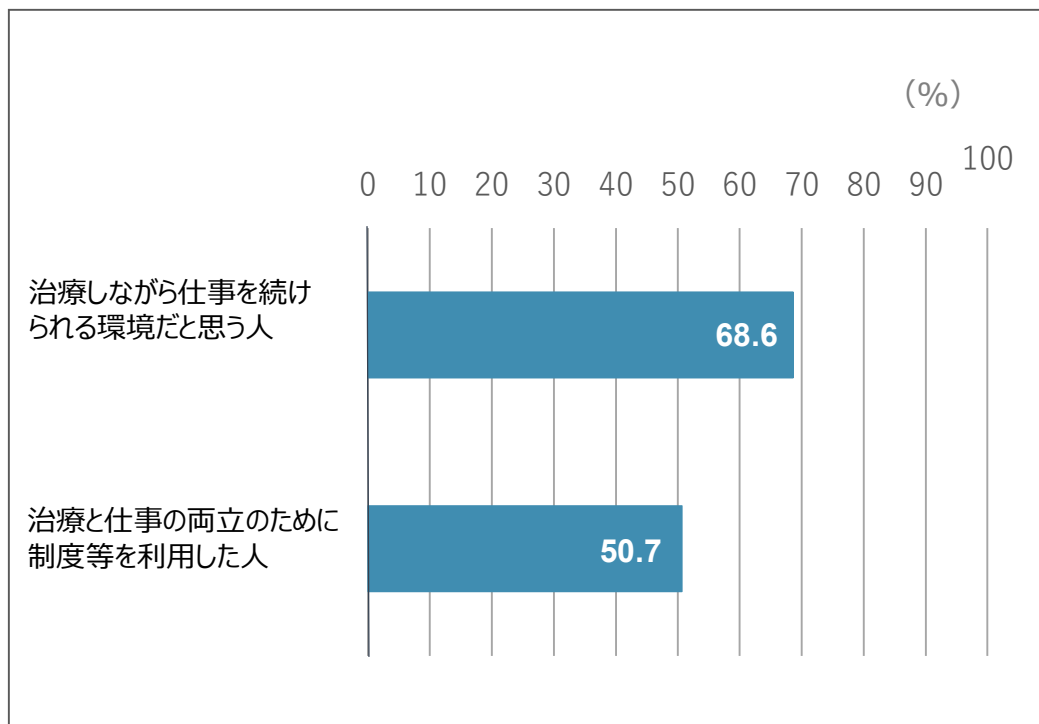


治療と仕事の両立

治療と仕事を両立するために制度等を利用した人は**50.7%**

制度がない・知らないと回答した人は**14.7%**

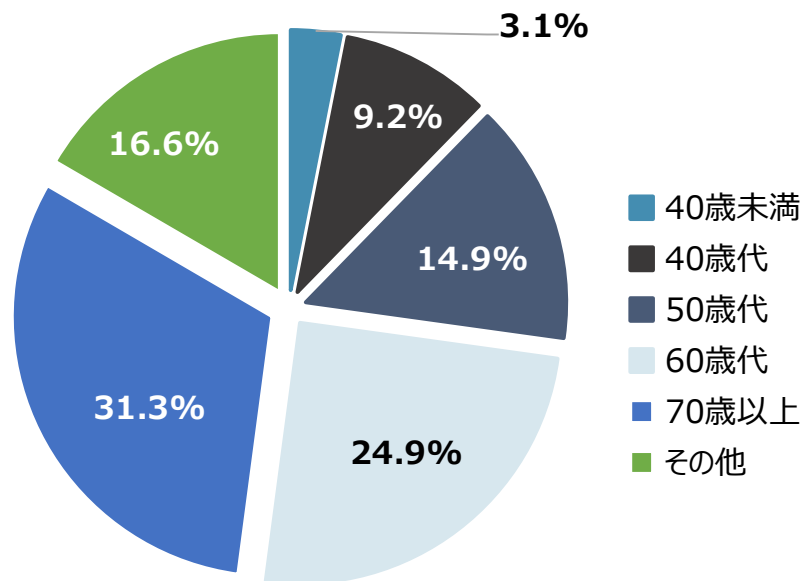
利用できる環境ではなかったと回答した人は**14.7%**



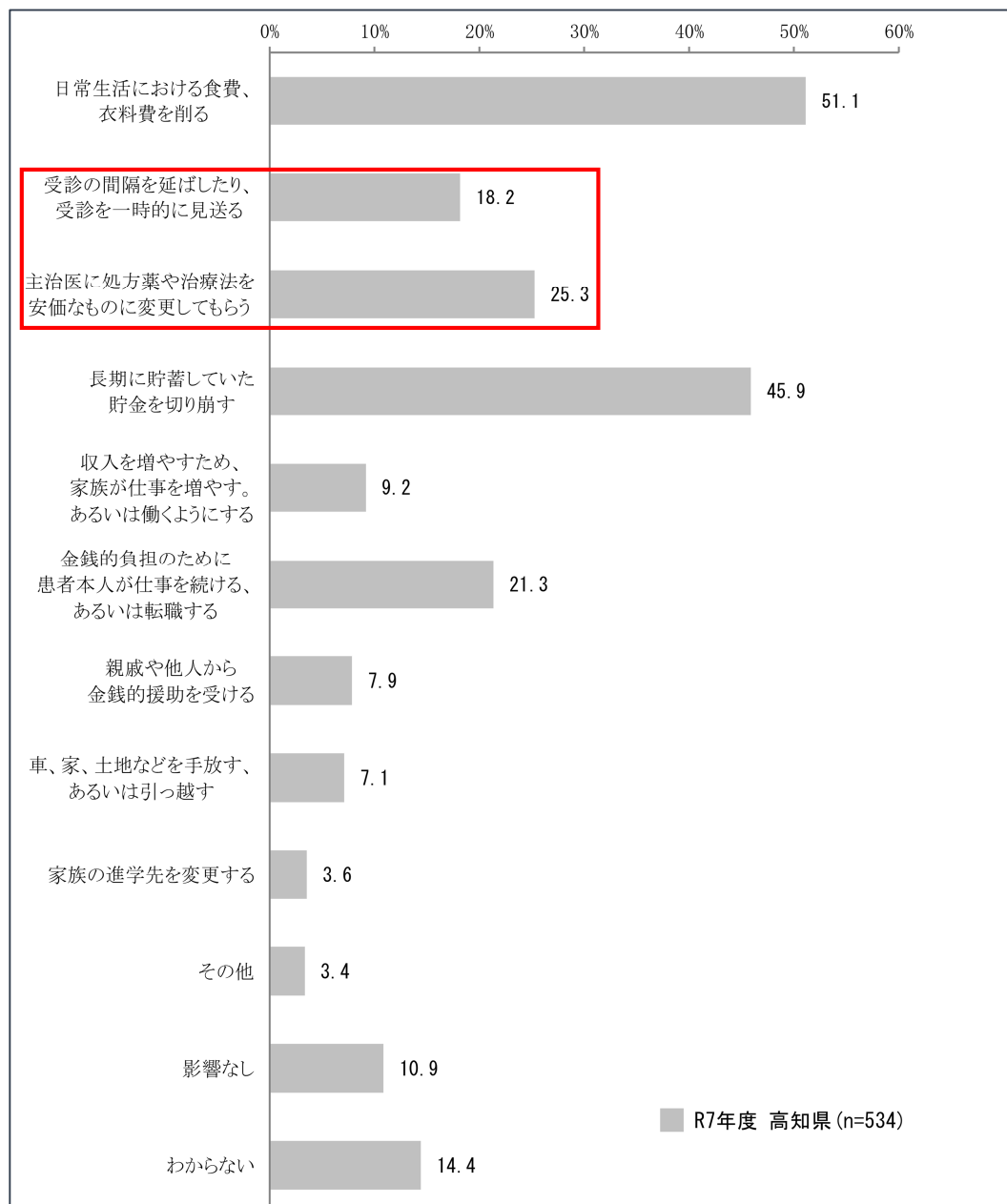
高額療養費制度について

高額療養費制度を使ったことがある人は**79.0%**

制度を使ったことがある人（n=422）
【診断時の年齢別】



限度額引き上げに伴い、どのような影響があるか



調査結果を踏まえた課題

1 相談支援について

- 相談窓口の認知度は向上したが、医療スタッフから説明があった人は2割程度。
- 相談窓口を利用したことがない人の2割が「何を相談する場なのか分からなかった」、1割が「場所がどこにあるか分からなかった」と回答している。
⇒がん患者やその家族等が必要なタイミングで相談窓口を利用できるよう、医療スタッフ間の認知度向上や周知において改善が必要。
- がん患者の家族の悩みや困りごとを相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う人の割合は、全国値と比べ低い値となっている。
⇒相談者の多様なニーズに応じた相談支援ができるよう、相談支援の充実が必要。

2 がんサポートブックについて

- サポートブックを見たことがある人は2割、役に立った人は5割であった。
⇒より多くの患者さんやご家族の手に渡るよう、周知強化及び掲載内容の充実が必要。

3 仕事と治療の両立について

- 今まで続けてきた仕事をやめた人（休職後、復職していない人含む）は2割、退職した人の5割以上が初回治療までに退職している。
- 治療と仕事を両立するための制度等を利用した人は5割、利用していない人の3割が「制度がない・知らない」または「利用できる環境ではない」と回答している。
⇒がん患者が診断時から治療と仕事を両立できるような情報提供が必要。
職場における制度の導入やがん患者への理解等の推進が必要。

調査結果を踏まえた今後の取組

1 相談支援について

- ①相談窓口ポスター及びカードのデザインや内容等の見直し、配布医療機関を増やす
- ②相談窓口やがん患者サロン等について、がんポータルサイトトップページへ掲載し、周知強化
- ③がんピア・サポーターの養成及び派遣

2 がんサポートブックについて

- ①がん治療を実施している全ての医療機関へ配布するとともに、冊子の配置だけでなく、
がんと診断された患者さんへ医師、看護師等から確実に手渡ししていただけるよう依頼する
- ②がんポータルサイトトップページへ掲載し、周知強化
- ③患者さんやご家族のニーズに合った情報を掲載できるよう内容を充実

3 治療と仕事の両立について

- ①がんポータルサイトへ新たに「仕事と治療」のページを作成し、両立支援に関する情報や相談窓口等について周知強化
- ②治療と仕事の両立支援に関する動画及びマニュアルを作成し、事業所向けに啓発を強化